

B 面が A 面にかわるとき

B 面：大学を出たなりに事務所を構え、仕事を選べず異なるクライアントに異なるデザインを提案していたため、いつの間にかスキーマの作品群が多重人格化し、迷走。

↓
あるとき《Sayama Fkat》を手掛ける。その作品があまりにも異例な作品であったため B 面という言葉でジャンル分けすることにした。

A 面：《Sayama Flat》と同時期に竣工していた《63.02° 》というプロジェクトがあり、それを A 面とわけている。

青木淳 / 純粋なブレ

長坂常→他律的であると同時に自律的である道を模索している

奥沢の家→「自律的な他律性」
相矛盾する見えの間
既存と新装という対立するものが振動し、両義性をまとう

- ・ いろいろな対立項が用意され、その間のアンビバレンスが、何層にも丁寧に塗り重なれた作品
- ・ 自律的なブレの感覚自体が主題である

田中功起 / 正確さが導くこと

- ・ なにかを正直に、あからさまに受け入れること = 視点だけを変える

- ・ ネガティブなことをポジティブなものとして受け入れる

- ・ 否定ではなく、肯定によって見出された視点
→いちからつくり上げる以上の大きな変化と可能性がある

- ・ 住むひとに新装をレクチャーし、視点の変化を促しても不安定

- ・ 視覚的な変化をもたらすには「つくるひとによるあからさまにわかるような実施」が必要である。

岡田利規 / 肯定としてのリノベーション

リノベーション≒身体への演出
→演出や既存を肯定の行為そのものとしての、リノベーションや演出

肯定のぞぶりの背後に否定があること
→肯定を浮き彫りにするために、その周囲に施される否定

トレンドに置いて行かれてしまったかつてのセンスを、ユーモアによって生きたものしにするという態度

重層的建築

私たちの身の回りはすでに重層的
→単層的にする行為をデザイン行為と捉えがちだった

重層的建築とは
既存＝重層→その間を間引いていく
間引き方自体がデザイン

《Sayama Flat》→間引いた上で、引き継がれたもの同志の関係性を再構築

奥澤の家についてのエッセイ

1. スネ夫の家
2. 外壁のリノベーション
素材自体の見え方。レンガの立体感を引き算し、平面的な線画にする→” 軽く ” する
3. 落書き建築
リノベーション＝非線形的な思考を許す計画
どこを基点にするかが重要
4. プロポーズにカーテン
5. 陸屋根と三角屋根
陸屋根を象徴するパラペットと三角屋根を象徴する寄棟を同時に見せる
6. 屋根の上のベンチ
屋上は気持ち良すぎて、室内との間に距離が生まれてしまう
→他のスペースから独立させつつ、テクスチャによる小刻みなシーンの展開で連続させた
7. 形がない
8. テクスチャがある
テクスチャの密度や濃度の調整によってつくり上げる
9. 僕たちの身の回りにあるものはかっていい
町からしても、既存の建物はそこまでの成り立ちを知っているため、変化を楽しめる。
→すでにそこにあり、記憶に留まっている形を無視するべきではないのではないか。

千葉雅也 / フレーミングとオブジェクト

- ・ 「部分的均質化」
部分的均質化を行うことで馴致することができる
↓
「面」に対して相対的に、残し置かれた「ダサイ」オブジェクトが目立つ

- ・ 「オブジェクト指向存在論」
一個オブジェクトはあらゆる関係性から「隠蔽した」実在性を有しており
あらゆるオブジェクトは絶対的に個々別々、分離している、無関係である

Q, 000 的なあり方は、部分的均質化のテクニックに依存しているのではないか。

- リノベーション作品で起きている事態は、オブジェクトに徹底的に対峙しているわけではない
→部分的な〈真っ白〉や〈空白〉
 - ・ オブジェクトをコンテキストから分断するフレームとしての機能
 - ・ オブジェクトが主体的に隠蔽するのではなく、隠蔽させている

建築において、オブジェクトの野生の威力をもっと危険な程度にまで迫り出させ、かつ、作品を成立させることはできるのか
→オブジェクトの野性的テリトリーを最大限発揮させる
→〇〇〇の問題提起

門脇耕三 / 建築的牢獄からの脱走

《Sayama Flat》が犯したこと→機能性に裏打ちされた抽象的な建築表現

- ・ 「空間」：図と地の関係の、地（床・壁・天井）の操作により図を知覚させる。
→「空間」をつくるためフラットにしてい→排他的領域
→単一の機能を当て込む→機能的にも排他的となる

建築的牢獄：純粋であるがゆえに排他的な空間によって構成された建物は、そこに与えられた定義を抜け出すことができない

- ・ 長坂：「空間」そのものを破棄した→建築を牢獄から開放する試み
エレメント→「図」へと反転→「他者」の存在・開放性

浅子佳英 / 無関心なざわめき

- 2009~2016 は長坂の時代であるが、どの書物にも記述がない
→ショップデザインにおいて重要な作品を作っているが正当に評価されていない
- ・ 《Sayama Flat》は作品であるか。設計と言えるのか。